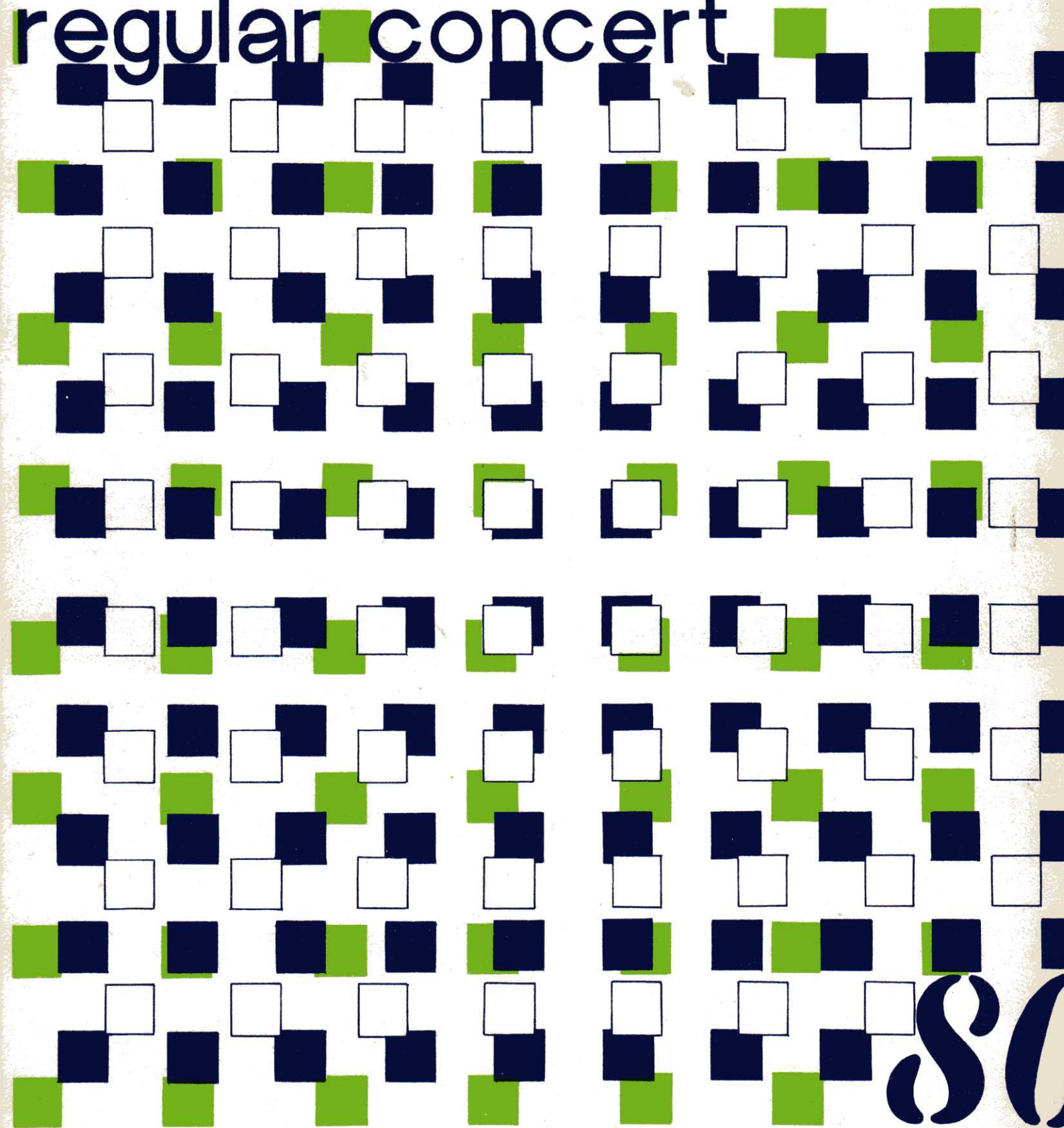


regular concert



80



部長
北島 忠男

明大ハーモニカ・ソサエティーでは、今年の夏期合宿を秋田県能代市で行いました。この合宿は当ソサエティーの先輩である小笠原晴海氏の御世話によるものでしたが、同氏が教鞭をとっておられる能代商業高校にも、同氏の指導によるハーモニカ・ソサエティーが健やかに育っております。8月24日には能代市公民館に満員の聴衆を迎え、両ソサエティーによる合同演奏会が成功裡にもたれました。

明大ハーモニカ・ソサエティーは、本日ここに秋の定期演奏会を開催することとなりましたが、能代商高のそれは、本日、仙台市で開かれている東北地区音楽コンクールに秋田県の代表として出場しております。卓越した成績を取められるよう心から祈って止みません。

こうして遠隔の地の人びとと親交を持つことができますのも、音楽演奏という共通のきづなによるものと、一層のよろこびを感じるものであります。本日ここにご来場の皆様におかれましても、音楽演奏による親交の環にお加わり下さいまして、秋のひと夜を楽しくお過ごし下さいますよう心から念じております。今後とも、当ソサエティーの発展のため、暖かいご支援とご鞭撻を賜りますよう心から御願ひ申し上げます。



顧問
林 久吉

過去30数年間、明治大学ハーモニカ・ソサエティー部長として、共に楽しく過した私にとっては、ソサエティーは、終生忘れがたいものとして私の脳裡にとどまっているに違いありません。

特に、春秋二期の演奏会が近くなると、今は縁遠くなくなってはいるというものの、あの楽しい夢のような光景を想い出さずにはおれません。

現部長より、またはOBの方より承りますと、部員一同は従来如く、ハーモニカ音楽を楽しみ、研究し、これを方便として高い情操の涵養に努めておられる由で、誠に欣快に堪えない次第であります。

私は、本日の演奏会で諸君の演奏振りを拝見し、新旧部員の方々にお目にかかり、その健康を祝福し、明治大学ハーモニカ・ソサエティーの発展を神念したいと存じます。

吹く風に枯葉も踊る初冬の候、貴ソサエティーには目出たく第80回定期演奏会の開催を迎えられます事は、同じく音楽を追求する我々明治大学マンドリン倶楽部にとりましても、誠に喜ばしい次第です。

今宵の饗宴におきましても、前回に優る盛大なコンサートとなりますよう、又貴ソサエティーの御発展を心からお祈り致します。

明治大学マンドリン倶楽部

秋深まりゆく今宵、ここ神田共立講堂におきまして第80回定期演奏会を迎えますことは、私共部員一同、大きな喜びとするところであります。今回は第一部にクラシック音楽、第二部は青春のもつ喜び・苦悩をとりあげ、テーマを「青春の光と影」としてみました。そして第三部は田中のりさんに御出演を願い、ハーモニカ・カルテットとギター合奏を特集し、第四部にラテン・タンゴ・ロック等、軽快なポピュラーな曲を集めてみました。

今宵は、部員一同日頃の練習の成果を十二分に発揮するよう大いに張り切っていますので、どうぞ終演までごゆっくりお楽しみ下さい。

最後にこの演奏会のために賛助出演して下さいました田中のりさん、ならびに会場整理に当たって下さいました実務珠算部の方々、そしてご多忙にも拘らずご来場下さいました皆様方に心からお礼申し上げます。

明治大学ハーモニカソサエティー部員一同

— I部 クラシック —

春の海

作曲 宮城道雄

新邦楽として箏と尺八の二重奏曲の形式で昭和4年作曲された曲である。構成は三部形式である。第一部は緩徐な速度で春の海のおだやかな波の感じで始まり、舟ばたによせる小波の音やかもめの声などが配され、非常に落ち着いた明るい、文字通り水ぬるむ春の日の海の情景をよく表わされており。第二部はやや急速で、活発な櫓拍子や船唄の気分、のどかな春霞の気分が織り込まれて、邦楽独特の味の活かされている部であり、第三部は再び第一部の緩徐な速度の部分にもどり、優雅な印象の部分で曲を終了する。この純日本的な曲の当クラブの演奏をお楽しみ下さい。

指揮 村上栄作

セビリアの理髪師 序曲

作曲 ジョアッキーノ・ロッシーニ

「セビリアの理髪師」は、モーツァルトによって作曲された名曲、「フィガロの結婚」の姉妹編で、主な登場人物も同じである。共に原作はパリの演劇界に明朝な笑いをもち込んで、鋭い風刺の故をもって、かのモリエール以来の最大の劇作家といわれたボーマルシェの手になったもので、「理髪師」は1755年、「結婚」は1781年に発表された。ロッシーニは24才のとき、「セビリアの理髪師」を書いたが、年令の半分の日数でそれを書き上げたそうである。

劇の内容は、「フィガロの結婚」の前編に当たり、アルマヴィヴァ伯が、気のきく理髪師で町の人気者であるフィガロの知恵を借り、彼の協力を得て、美しい娘ロジーナとの結婚を望む後見人バルトロの裏をかき、めでたくロジーナと結婚するという筋で、機知と風刺とユーモアに満ちた喜劇である。

音楽は形の上では喜歌劇の典型といってよく伝統を重んじているが、軽快、はつらつ、ロッシーニの喜歌劇の特色を最もよくあらわした名作で、序曲をはじめ、劇中には、オペラの舞台を離れて、しばしば演奏される名曲がある。ただし、この序曲はもともと、このオペラの為に書き下されたものではなく旧作の序曲を転用したもので、その類の成功した好例である。軽いタッチと浮き浮きした気分をもったこの序曲は、後に続く喜劇のムードを確立するのにすぎないのであって、作品全体の性格にはマッチしているが、オペラの物語や題材とは、直接関係がないのである。

指揮 金藤尚文



溢れる名曲 落ち着いた優雅な雰囲気

団体予約お受けいたします

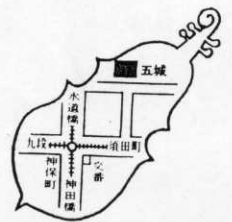


珈琲
名曲

五城

(旧名 らんぶる)

- ◆年中無休
- ◆営業時間 A.M. 9:00~P.M. 10:30
- ◆サービス・タイム A.M. 9:00~P.M. 1:00
- ◆神田神保町1-6 TEL(293) 4851(代)



青春の

雨降りの夜

ひとりぼっちがさみしくて 一晩中

部屋のまん中で ひざをかかえていた私

あてのない

あの人に贈ろうと買ったのに

腕の中で 枯れて

I サウンドオブサイレンス

II スカボロフェア

IV 青春の光と影

V シェルブールの雨傘

